INFORMATION MAGAZINE THE JOURNAL

ザ・ジャーナル!!

National Hospital Organization Okayama Medical Center

Vol.17
No.4
2023.3

やさしさ便り～国立病院機構岡山医療センターの今

地域災害拠点病院
地域医療支援病院
地域がん診療連携拠点病院
総合周産期母子医療センター

岡山医療センターの理念

今、あなたに、信頼される病院

－病める人への献身、
医の倫理に基づく医療への精進と貢献－

1:医学的根拠に基づいた高度で良質な医療を提供します
2:病める人の権利と意思を尊重した、安心安全な医療を提供します
3:地域の中核病院として医療連携を通じ、地域社会に積極的に貢献します
4:教育研修病院として医師、看護師等医療に従事する人材育成に努めます
5:医学の進歩に貢献するために、臨床研究を積極的に行います
6:職員が仕事に誇りと充実感を感じられる病院作りをめざします
7:上記6項目を実現し維持するため、健全な病院運営に努めます

岡山医療センター
ホームページ

CONTENTS

2 特集:リハビリテーション科
4 特集:消化器内科
7 特定非営利活動法人ジャパンハートとのパートナーシップ協定の締結について
8 心理的安全がチーム医療に役立ちます／「育成賞」の受賞
9 歯科だより／薬だより
10 初期研修医通信
11 健康レシピ／金川病院だより
12 リソースナース室通信／横浜幸銀信用組合様より寄附をいただきました
13 たまにはクラシック
14 看護助産学校通信
15 臨床研究推進便り／医療安全レポート
16 キワニスドール贈呈式およびキワニスドールセミナーが開催されました
18 患者支援センター
19 患者サポート室の活動／患者サービス推進室
20 絵本を出版しました!

表紙写真　岡山医療センター正面玄関前ロータリー

特集

リハビリテーション科

■リハビリテーション科医長　塩田　直史

「リハビリテーション」（Rehabilitation）の語源はラテン語で、re（再び、戻す）とhabilis（適した、ふさわしい）から成り立っています。リハビリテーションとは単に訓練を行うことではなく、障害をもった方が可能な限り元の社会生活を取り戻すことを意味します。障害が軽減するように機能訓練を行うことはもちろん、仮に障害が残るようなことになっても生活に少しでも支障を来さないようにするべく訓練・環境整備などを行っております。単なる機能回復ではなく、「人間らしく生きる権利の回復」や「自分らしく生きること」が可能になること重要で、そのために行われるすべての活動がリハビリテーションと言われております。

当院リハビリテーション科の紹介

リハビリテーション室は、病院本館の1階に位置し、院内全診療科の患者さんを対象にリハビリテーションを提供しています。職員は、医師2名・理学療法士18名・作業療法士5名・言語聴覚士2名で担当しており、年々充実してきております。スタッフの充実に伴い、2018年度から、土日や祝日でもリハビリを継続して提供できる体制にしておりましたが、2023年度からはさらに拡張し土日も平日も変わりのない完全365日リハビリテーションへとサービスの拡大を予定しております。運動器・心大血管疾患・脳血管疾患・廃用症候群・呼吸器等の疾患別リハビリテーション・さらにはがん患者リハビリテーションも含めたすべての施設基準を有しています。

リハビリテーション室において
左からリハビリテーション科医師 塩田と西崎

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士スタッフ一同

2021年度は、理学療法が60,000件、作業療法が20,000件、言語聴覚療法8,000件と、非常に多くのリハビリをおこなっています。具体的な対象・疾患は、骨関節外科（外傷・人工関節）、脊椎外科術後、心筋梗塞・心不全・肺高血圧症、脳卒中・神経難病、周術期の安静に伴う体力低下、肺気腫・肺炎後などによる身体機能・生活機能・摂食嚥下・発音障害等が、当院における主なリハビリの領域です。リハビリテーション医療は多くの専門職によるチーム医療であり、定期的なカンファレンスを行い、患者さんや御家族を含め、医師、看護師、各療法士の意思統一とゴール設定を行っています。スタッフ一同、患者さんがもとの社会生活を取り戻されるよう全力を尽くしております。

理学療法とは（理学療法士：PTの仕事）

運動療法と物理療法により、運動機能の回復を目指します。理学療法では病気やケガによる障害に対し、機能の回復や維持を目的とした徒手療法および動作訓練を行います。対象は中枢神経患、整形疾患、心血管疾患が主となり、当施設では回復期への橋渡しを行う事が主な内容となります。特に、手術前後からの積極的なリハビリテーションの導入にて、ここ2年間で手術後の自宅復帰率は人工股関節置換術で81→91%へ、人工膝関節置換術で57→82%と大きく改善し、成果をあげております。

リハビリテーション室での退院前歩行指導

人工膝関節手術後のベッドサイドでの理学療法

心臓大血管疾患リハビリテーション

当院では西崎医長を中心とした心臓血管リハビリ部門が充実しております。心臓病の患者さんが受ける、身体機能の回復や運動能力の改善を図る運動療法はもちろん、生活の質の改善を図りさらには再発防止や再入院を予防する病気に関する教育・生活指導を含めた治療プログラムが含まれております。また多くの臨床研究も行われており、英文をはじめ論文も多数発表されております。

心臓リハビリテーションにおける心肺運動負荷試験の様子

作業療法とは　（作業療法士：OTの仕事）

日常生活動作を手段として、生活力を取り戻すリハビリテーションです。仕事・遊びなど人間の生活全般に関わるさまざまな活動を「作業活動」と呼び、それらをリハビリテーションの手段として動作の向上や在宅への復帰を支援しています。患者さんの退院後の生活スタイルは千差万別です。おひとりおひとりの実生活を想定し、話し合いの中からニーズを引き出し、患者さんの意志を尊重した目標を設定しています。その目標を実現できるよう、基本的動作や日常生活活動を改善するための指導・訓練を行います。

左手不自由患者さんへの車椅子指導（右手のみで車椅子をこぐ練習）

言語聴覚療法とは　（言語聴覚士：STの仕事）

言語聴覚士とのマンツーマンの訓練で、円滑なコミュニケーションを図れるようになることを目指します。さまざまな訓練を通じて、言葉に問題を抱えている方にとっての最適なコミュニケーション手段を探し、円滑なコミュニケーションがとれることを目指していきます。失語症及び構音障害を治療対象とし、またそれに付随する高次脳機能障害に対してアプローチを行っています。また嚥下等の口腔部にかかるリハビリテーションにも積極的に関わります。

近年は、骨脆弱性骨折（骨粗鬆症のある骨折）患者さんに対して、摂食状況から骨粗鬆症治療を含めた多職種連携カンファレンスを行っています。言語聴覚士、医師、看護師、栄養士、薬剤師、歯科助手、理学療法士で週一回集まり、患者さん個々の嚥下状況や食事の状態などを判断し、口腔ケアや食事形態を細かく修正していくことも行っております。

言語聴覚士を含めた多職種連携カンファレンス

さいごに

近年の高齢化に伴い、リハビリテーション領域のニーズは増加の一途です。運動器疾患や脳卒中患者さんはもとより、心臓疾患や担癌患者さんの社会復帰に対しても大きな期待が持たれております。院内の各科をはじめスタッフ、さらには地域の病院・医院の医療関連各職種の方々と力を合わせて対応していく必要があります。今後は、今まで以上に横断的な多職種・診療科連携を図り、より地域に密着した医療にも関わってゆきたいと思っておりますので、皆様ご協力のほどよろしくお願いいたします。

特集

消化器内科

■消化器内科医長　清水　慎一

消化器疾患は性別や年齢にかかわらず、日常診療において最も頻度の高い疾患領域の１つです。消化器内科では、食道・胃・十二指腸・小腸・大腸の消化管や肝臓・胆道・膵臓などについて、良性から悪性まで全ての消化器疾患の診療・治療に携わっています。24時間体制で救急対応しており、腹痛はもちろん吐下血や血便、胆石や急性膵炎など多岐にわたります。医師・看護師・内視鏡技師たちが一丸となって、ガイドラインに基づいたスタンダードな診療と救急対応のできるスピーディーな治療を目指しています。

スタッフ・施設認定

現在５名のスタッフとレジデント１名、専攻医２名で診療にあたっています。

当院は日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本カプセル内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、岡山県肝炎専門医療機関の指定を受けており後進の指導育成にも注力しています。

診療内容

消化管領域では内視鏡診断・治療に重点を置いています。最新の拡大内視鏡や特殊光内視鏡を駆使して癌の精密診断を行い、負担の少ない内視鏡治療に結びつけています。癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）は年々増加し、昨年度は130例でした。良性疾患についても注力しており、バルーン小腸内視鏡やカプセル内視鏡を含むさまざまな機器により全消化管の精査・治療が可能です。

肝疾患領域においては、ウイルス性肝炎から肝硬変、非アルコール性脂肪肝炎（NASH）まで幅広く診療にあたっており、肝細胞癌に対してはラジオ波・マイクロ波焼灼治療などを行っています。

胆膵疾患は緊急で治療を要するものが多く、胆石や急性膵炎、癌による黄疸に対して内視鏡治療を行っています。今回は胆膵疾患領域に係わる内視鏡診断・治療について超音波内視鏡（EUS）を中心にご紹介します。

EUSによる内視鏡診療

従来胆膵疾患の精査に多く行われていた内視鏡的逆行性膵胆管造影検査（ERCP）は、検査後に膵炎を起こすことがあるため、診断目的の検査としては当院では減少傾向にあります。それに対して超音波内視鏡（EUS）は膵炎のリスクなしに病気の存在診断・質的診断が可能で、さらにはEUSを治療に用いることも増えてきています。

EUSは経口内視鏡（胃カメラ）の先端に超音波装置が取り付けられた特殊な内視鏡です。通常の体外エコーでは捉えにくい胆管や膵臓について、EUSを用いることで体の奥深くまで詳細に観察することが可能になります。さらに観察された腫瘍に対してEUSの先端から針を刺して胆道癌や膵癌の組織細胞を採取することができます。これをEUSFNA（超音波内視鏡下穿刺吸引）といいます［図1］。当院では、より少ない穿刺回数でFNAよりも高い診断能があるとされるEUS-FNB（超音波 内視鏡下生検）を導入しています。

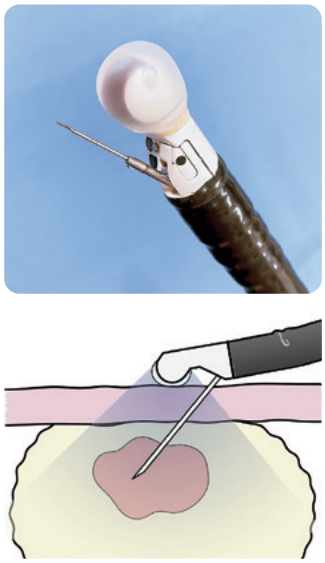


図1　EUS-FNA

近年、EUS-FNAを応用した超音波内視鏡下胆道ドレナージ術（EUS-BD）という新しい治療が開発されました［図2］。癌などによる胆道の閉塞で黄疸を生じた患者さんに対して、かつて経皮経肝胆道ドレナージ（PTBD）を行って貯まった胆汁を除去していた時期がありました［図3］。この方法ではおなかの皮膚を通

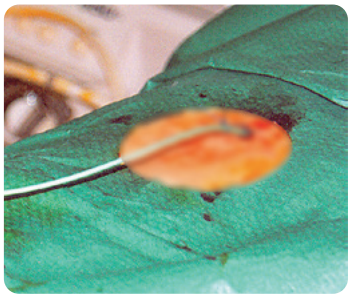
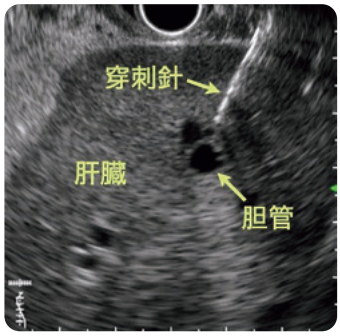
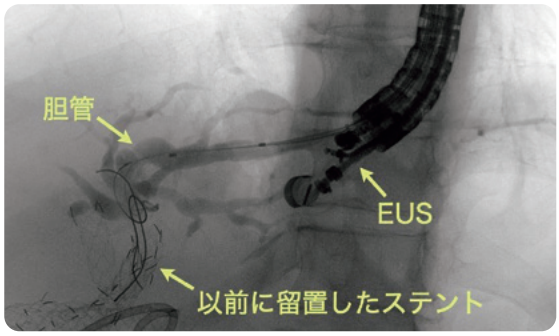


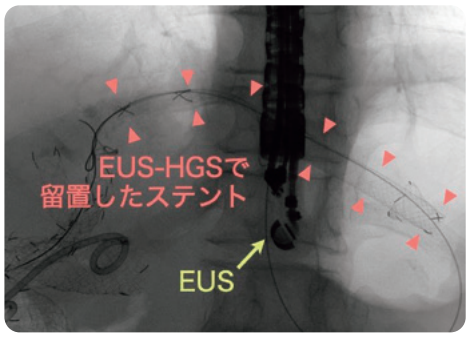
図3　PTBD



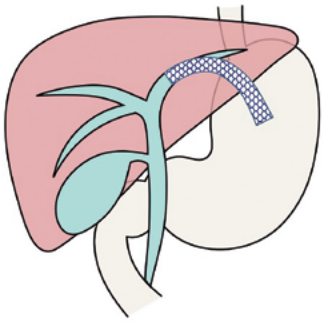
a：胃から肝内の胆管を穿刺



b：肝内の胆管にワイヤーを誘導



c：金属ステントを展開



e：胃内で展開されたステント

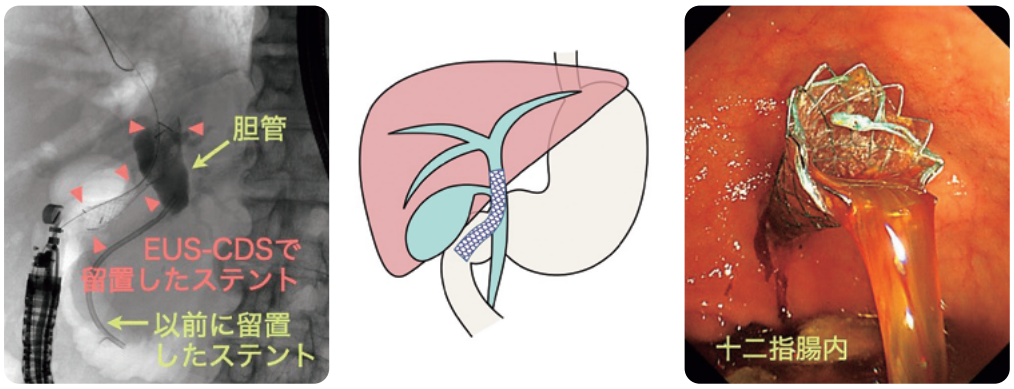
図2　EUS-BD

して胆道までチューブを留置したままにするので、患者さんに不自由を強いる欠点がありました。ERCPを用いれば、おなかの中に胆道チューブを内蔵することができるのでPTBDのような負担はありませんが、癌で十二指腸深部まで内視鏡を進めることができない患者さんではチューブを留置することができません。その点、EUS-BDでは、胃や十二指腸浅部まで内視鏡の挿入が可能であれば、その壁をFNAの技術で穿刺して胆管まで到達することができます。穿刺したあとにはステントと呼ばれる管を留置し、胆汁の流出路を確保します。ステントにはプラスチック製と金属製があります。EUS-BDは穿刺する場所によってさらに分類され、主に胃から穿刺する超音波内視鏡下肝内胆管胃瘻孔形成術（EUS-HGS）と十二指腸浅部から穿刺する超音波内視鏡下胆管十二指腸瘻孔形成術（EUS-CDS）があります［図4］。また急性胆嚢炎に対して超音波内視鏡下胆嚢ドレナージ（EUS-GBD）、急性膵炎に伴う嚢胞・膿瘍に対

して超音波内視鏡下膵仮性嚢胞ドレナージ（EUS-PCD）を行うこともあります。いずれも体の表面からチューブが出ない低侵襲治療です。

日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会・日本胆道学会・日本膵臓学会の４学会から『EUS-BDは熟練した胆膵内視鏡医のみが施行すべき』という合同提言がなされています。当院では2019年７月EUS-BD経験医師が赴任して以降、積極的に実施しています。これまですべての患者さんで問題なく治療を完遂し、黄疸をなくすことに成功しています。

消化器内科では今後もさまざまな最新の技術を用いて、ハイレベルな診断・治療をご提供できるよう努めてまいります。



a：十二指腸から肝外の胆管を穿刺

b：十二指腸内で展開されたステント

図４　EUS-CDS

特定非営利活動法人ジャパンハートとのパートナーシップ協定の締結について

世界とつながる小児外科

■管理課長　田中　光照

特定非営利活動法人ジャパンハートは、2004年「日本発祥の国際医療NGO」として創設者・吉岡秀人（小児外科医）先生が、自身の長年の海外医療の経験をもとに、医療支援活動のさらなる質の向上を目指して設立され、以来、「医療の届かないところに医療を届ける」を理念に 国、地域、人種、政治、宗教、境遇を問わず、すべての人が平等に医療を受けることができ、“生まれてきて良かった”と思える社会の実現を目指し活動されています。

当院においてはこれまでも、ジャパンハートからの依頼を受け、当院所属の医師チームを派遣してのカンボジア、ミャンマー、ラオスでの医療活動のほか、現地にて治療が困難な症例に対応するため当院にて患児を受入れ、手術、治療を行ってきました。また、現在は、現地カンボジア人医師の研修受入れを行い医療人材育成に取り組むなど様々なアプローチで発展途上国における医療支援のためジャパンハートと連携、協力を図ってきました。

このような経緯から、これまでの医療支援活動を形とするべく、パートナーシップ協定を締結する運びとなりました。

このパートナーシップ協定は、発展途上国からの患者治療受入れ、医療従事者人材育成支援、国際医療支援（ボランティア活動）、災害支援協力（ボランティア活動）への取組み等の様々な分野において、相互の連携と協力を推進することにより、国内外の医療課題解決にともに取り組む医療支援活動に寄与することを目的としたものです。

令和４年12月６日（火）ジャパンハート　吉岡春菜　理事長と当院　久保俊英　院長により当院において締結式を執り行い、今後の協力に向けて相互で確認しました。

本協定における各代表のコメントは次のとおりです。

〈ジャパンハート 理事長 吉岡春菜様〉

今まで岡山医療センターには、ジャパンハートの活動地で治療が難しい子どもたちの受け入れや、小児外科チームを派遣していただくなど継続的に多大な支援をいただいております。このたびの協定締結を通してさらに協力体制を強化し、より広い分野での支援活動を展開していきたいと思っております。

〈岡山医療センター 院長 久保俊英〉

岡山医療センターは、今までも小児外科疾患を中心にジャパンハートの活動に最大限の協力をしてまいりました。今回の協定締結を機に、小児外科疾患に限らず、小児内科、周産期、ひいては成人疾患に至るまで、あらゆる分野での国際医療貢献を推し進めてまいりたいと思います。また、国内における賛同施設が増えるよう側方支援もしていきたいと思います。

NHO岡山医療センターとNPO法人ジャパンハートとの連携に関する

パートナーシップ協定書

令和4年12月6日

岡山医療センター　久保 俊英

Japan Heart　吉岡 春菜

心理的安全がチーム医療に役立ちます

■主任臨床工学技士　藤本　典一

皆さんの職場では「怒られたらどうしよう」「間違ってたら恥ずかしい」など自分の意見が発言しにくいと感じたコトはありませんか？

それは、皆さんの職場の「心理的安全性」が低いからかもしれませんよ。

「心理的安全性」という言葉は近年注目されていますので皆さん聞いたことがあるのではないでしょうか。詳細については省きますが、「心理的安全性が高いチーム」とは「チームの目標に向かって誰もが率直に思ったことを言い合える状態」であり、チームの全員が「心理的に安全な状態」ということです。

当院では様々なコミュニケーションツールをまとめたTeamSTEEPS(チームステップス：以下TS)を推進するため、医師、看護師を中心とした多職種でTSグループを結成し活動しております。

「心理的な安全」は仕事や医療安全、TSに取り組むうえでの土台になるモノだと思います。

我々TSグループは、職員みんなが各職場で「心理的な安全」を感じられる風土作りを目指します。「怒られたらどうしよう」「間違ってたら恥ずかしい」などと委縮しない、そんな職場にしていきましょう。

スタッフの皆さま、特に職場長や先輩方、まずは「挨拶」や「感謝」を伝えることから初めてみませんか。

セーフティマネージャー会議　TeamSTEEPSグループ

「育成賞」の受賞

■初期臨床研修医　岩渕　愛央

初期研修医１年目の岩渕愛央と申します。私は宇都宮市で開催された、第26回日本病院総合診療医学会学術総会で「術後の持続する発熱を契機に無汗症と診断した１例」について発表させていただきました。初めて現地開催の学会に参加しましたが、先生方の丁寧なご指導のおかげで落ち着いて発表することができ、育成賞を頂きました。規模の大きな学会でこのような賞を頂けたことを非常に光栄に思います。発熱の原因として無汗症は鑑別に出にくい病気ではありますが、患者さんのQOLに深く関わる病気です。無汗症について知識を深めることができ、勉強になりました。会場では著名な先生方の講演を聞くことができ、鑑別力に感激すると同時に今後の診療へのモチベーションにつながりました。また、以前テレビで放送されていたドクターGと同じ形式で、私と同期の研修医が症例を検討し診断にたどり着く姿を見て非常に刺激を受けました。

このような貴重な機会を提供していただき、熱心に指導をして頂いた岩本佳隆先生をはじめとして、お世話になった総合診療科の諸先生方に感謝申し上げます。少しでも患者さんとご家族のために役立てるよう今後も引き続き勉学に励んでいきたいと思います。

歯科だより

歯科用金属にチタンが仲間入りしました

■歯科医長　山近　英樹

前回の歯科だよりでは、12%金銀パラジウム合金という歯科用金属の価格高騰についてお話させていただきました。とりわけ貴金属の高騰が著しいことから厚生労働省も対策・代替材料を打ち出しています。その一つが今回の表題にさせてもらった非貴金属のチタンだと思います。すなわち厚生労働省は2020年のチタン全部金属冠の保険適応にひきつづき、今年度からチタン前装冠を保険適応としました。全部金属冠というのはその名のごとく、歯を全面にわたって金属で被覆するように作るかぶせもの（冠）で、前装冠というのは前面（外から見える面）を歯色のプラスチックや陶材で被覆し審美性を向上させたかぶせものです。厚生労働省がチタンの保険適応範囲を広げていることがわかります。

チタンは非貴金属にもかかわらず生体内で耐食性、組織親和性、安定性を示しまた金属アレルギーも少ない金属です。価格も他の歯科用金属に比較すると安価で供給も安定しています。2022年10月現在インゴットで１ｇあたり30円程度と、１ｇが3,000円程度の12%金銀パラジウム合金と比較すると金属単価は百分の一です。鉱石の輸入相手国は、オーストラリア、インド、モザンピーク、南アフリカ、カナダと供給元が多く、当面国際情勢の左右は乏しいように思われます。そういった意味ではチタンは非常に経済性のよい金属でもあります。

生体安全性に優れ機械的性質も良好で経済性もよいチタンですが、金や銀に比較して融点が高いこともありこれまでの歯科用精密鋳造の技術では良質な金属冠の作成が困難でした。しかし長年の地道な研究により現在ではチタンの歯科用精密鋳造の臨床実用化が達成され、保険適応にいたりました。

今はまだ技術の成熟度の点から、チタン金属冠が選択される機会は少ないのですが今後数年で主流となることも予想されます。大きなむし歯をお持ちで、チタン金属冠を試してみたいという方はどうぞお声がけ下さい。

薬だより

Message from the pharmacist

柑橘類と薬の飲み合わせにご注意

■医薬品情報管理主任　工藤　美知　■薬剤師　森永　桃子

今回は薬と柑橘類の飲み合わせについてお話したいと思います。

一般的に薬は体の中に入ると代謝酵素で分解されて効き目を徐々に失っていきます。柑橘類にはこの分解に関与する代謝酵素の働きを阻害するフラノクマリン類という物質が含まれていることがあります。このようなものと薬を一緒にとると薬の分解がされにくくなってしまい、薬の効果が強く出たり副作用が出やすくなってしまいます。

柑橘類で注意しなければならないものは

グレープフルーツ、ザボン、ハッサク、ブンタン、スウィーティー、バンペイユなど

が挙げられます。逆に影響の少ないものは

温州みかん、オレンジ、伊予柑、ゆず、レモン、キンカンなど

といわれています。

一般的に薬の代謝酵素の邪魔をするフラノクマリン類は果皮に多く含まれていると言われており、果皮と果肉をミックスしているようなジュースやマーマレードは特に注意が必要です。またその効果は薬によっては２～３日続くといわれているため、同時にとらなければよいというものではありません。

以下は薬で飲み合わせに注意しなければならない代表的なものです。

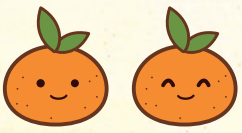
シクロスポリン（免疫抑制剤）

ニフェジピン（降圧薬）

カルバマゼピン（抗てんかん薬）

アトルバスタチン（高コレステロール血症治療薬）

などなど、まだまだたくさんあります。ご自身が服用されている薬が注意しなければならないものかわからなければお答えしますので、お気軽にご相談ください。



初期研修医通信

■初期臨床研修医　茅原　奈央

初期研修が始まって約１年が経とうとしています。少しずつですが病院にも業務にも慣れてきた時期です。研修開始当初は、どんなことに対しても分からない!と、心の中で「やばい、やばい!」を連呼していました。口から漏れることも多々ありましたが。４月からは後輩もできるので、恥ずかしくないように、残りの業務を大切にしていきたいです。

さて、卒業シーズンでもあるので、少し私の学生時代についてお話ししたいと思います。私の母校は島根大学で、キャンパスは出雲にあります。出雲大社が有名ですね。１年を通して風が強く、雨の日も多いです。岡山市内よりはだいぶ田舎で、大学の周辺にはあまり楽しい施設はありませんでした。しかし、夏に一面に広がる緑の田園風景や、息を呑むほど美しい日本海など、好きな景色や場所がたくさんあります。また、食べることが大好きで出雲のお店ならほとんど知っているというくらい友人と出かけていました。学生時代の友人とはずっと連絡をとっており、その度に学生時代が懐かしく思い起こされます。

学生から社会人となって、環境や生活スタイルも大きく変わり、せわしない毎日となりました。そんな日々の中でも、時にはゆっくりと今までのことを懐かしく振り返ったり、これからの未来に向けて、気持ちを新たにする時間をとりたいと思います。体調に気をつけて、研修医２年目も奮闘していきます!

追伸

医局の皆様へ

先日、同期お揃いのスクラブを作成していただきました。写真のようなデザインとなっております。

同期一同、このようなプレゼントをしていただき、大変嬉しく思っております。

今後とも、初期研修医一年目を何卒よろしくお願い致します。

この度は誠にありがとうございました。

栄養管理室 PRESENTS!

健康 Healthy recipe レシピ

知っていますか?「時間栄養学」

■管理栄養士　太田　優香

時間栄養学とは、「体内時計を考慮にいれた栄養学」のこと。栄養効果は時刻によって変化し、栄養素や食品成分によっても体内時計が変化します。

朝食がポイント

春は、新生活が始まる時期、生活習慣も乱れがちになります。生活を見直し、朝食の取り方を考えてみましょう!

身体機能の多くは、食事をいつ食べたかを目安にして活動期と休息期を決定しています。特に朝食の摂取時刻は活動期の開始時刻と認識するので、体内時計を合わせるために重要になります。

摂取する栄養素がポイント

体内時計を合わせるには、朝食で摂取する栄養素も関係しており、炭水化物とたんぱく質のどちらも摂る必要があります。この2つの栄養素を同時に摂取することによって、体内時計の時刻合わせに使われている「ピリオド」と呼ばれる遺伝子が活性化します。

炭水化物が多く含まれるごはんやパンだけで簡単に済ませてしまいがちな朝食ですが、卵や魚などたんぱく質が多く含まれる食品も摂る習慣を身に付けていきましょう。

(例)岡山医療センター朝食

ほかにも…

- コーヒーや紅茶・お茶は朝に飲むとgood! カフェインが体内時計を朝型にリセット!
- 低炭水化物食・高脂肪食・高食塩食は体内時計を狂わせる原因!!

参考資料
- 食べる時間を変えるだけ!知って得する時間栄養学　監修・柴田重信、古谷彰子(宝島社)
- 食べる時間でこんなに変わる時間栄養学入門　著・柴田重信(講談社)
- 栄養と料理2022.4号(女子栄養大出版部)
- 農研機構HP

岡山医療センター分院　金川病院だより

■金川病院理学療法士　安藤　大輝

金川病院のリハビリテーション科における役割

金川病院では、地域包括ケア病棟という岡山医療センターを含む急性期治療を終えた患者さんに対して在宅復帰に不安がある方や、在宅療養中の方、レスパイトケア(治療の必要性だけでなく、介護者が介護疲れなどで介護の継続が困難と医師が判断した場合に入院できる措置)の方などを受け入れ自宅復帰を目標にリハビリテーションを行っています。

当院でのリハビリテーションの目的は、患者さんひとりひとりの状況に合わせ、生活に必要な動作を可能な限り身に付け、なるべく自宅退院ができるように訓練を行っています。機能改善以外にも、患者さんとその家族がどのような生活を望んでいるのかを理解して、協力・支援していくことです。そのためにはリハビリテーション科だけではなく、医師や看護師、医療ソーシャルワーカーを含む病院スタッフとの協力が不可欠です。また家族や地域の施設の方に対して、情報提供や協力を依頼することで、スムーズに退院調整を行っていくことが必要となります。

例えば、歩行や排泄、着替え、入浴、食事など生活に関わる動作について評価を行い、自立して行えるのか、介助が必要なのかを判断します。特に介助が必要な患者さんについては

患者さんの能力を考えたうえで、家族への介助指導や自宅で安全に過ごすことができるように介護保険サービスを使い、歩行器やベッドといった福祉用具の利用や、必要であれば患者さんの自宅へ訪問し、実際に自宅の環境を確認して手すりの位置や段差の高さなどを把握し、患者さんが退院後に必要な動作の練習も行うことで自宅退院を目指しています。

なかには、自宅退院が困難な患者さんもおられますが、少しでも身の回りのことが自立して生活できるように訓練を行っています。思うようにいかないこともありますが、少しでも多くの患者さんが自宅退院をして、本人の希望通りの生活ができるように日々業務に取り組んでいきたいと思います。

リソースナース室通信 Vol.50

ストーマ外来について

ストーマとは消化管や尿路を人為的に体外へ誘導して造設した開放口であり、新たな排泄経路です。ストーマを造設された多くの患者さんは戸惑いや不安を持たれます。専門の看護師が対応いたします。

■皮膚・排泄ケア認定看護師　溝内　理子

皮膚・排泄ケア認定看護師は褥瘡や創傷、ストーマ、排泄ケアを専門に看護ケアを行っています。皮膚・排泄ケア分野は患者さんの生活の質に大きく関わってきます。スキンケアや排泄管理など患者さんが抱えている問題や不安に対して、患者さんごとに適したケアを提案し、安心してその人らしく生活できるようサポートしています。

皆さんは「ストーマ」をご存じでしょうか。ストーマとは消化管や尿路を人為的に体外へ誘導して造設した開放口であり、新たな排泄経路です。ストーマの特徴として、①排泄物を貯める直腸や膀胱がないこと②排泄物をコントロールする括約筋がないこと③排泄物が絶えず排泄されること等があります。そのため専用の装具で管理が必要となり、多くの種類のストーマ装具の中から患者さんごとに適した装具の選択と管理方法が必要となります。

ストーマ造設される多くの患者さんは、ボディーイメージの変化や排泄管理方法の変化、また、臭いや音など様々な戸惑いや不安を持たれます。ストーマ造設をした事で患者さんの生活の質が低下しないよう、専門的な知識を持って身体的・精神的支援を中心に日々関わっています。そのために、ストーマ保有している患者さんが安心して日常生活を送ることができるよう、ストーマ外来があります。ストーマ外来では手術後の定期的なフォローアップ、ストーマ周囲の皮膚トラブルやケア方法の相談、その時の患者さんの状態に合ったストーマ用品の紹介や情報提供、日常生活や社会生活での困りごとなど様々な相談に対応しています。例えば、新しいストーマ用品を試してみたい、真夏やスポーツをするときなど汗を多くかいた際の対応方法を知りたい、温泉旅行に行きたいから入浴時の注意点することはなど、患者さんからの質問や希望に応えています。また、院外の事業所（訪問看護ステーションや老人福祉施設など）とも連携を行い、在宅や施設での生活状況を想定しストーマケアの指導や相談を行っています。

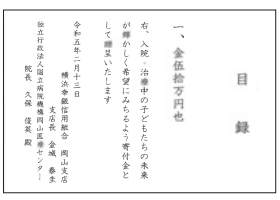
ストーマケアでは装具交換の工夫や服装の工夫など患者さんの相談に応じながら学ぶことも多いです。私たちは根拠をもって創意工夫と試行錯誤を繰り返しながら充実したストーマ外来を行っています。ストーマ外来がストーマに関する相談・問題解決の場となり、ストーマ保有している患者さんが安心して生活できるよう引き続き活動を継続していきます。ストーマに関して、お困りのことがあればお気軽にご相談下さい。

開催日時：毎週金曜日12：30～16：00
場所：3階　外科外来
担当：皮膚・排泄ケア認定看護師

リソースナースとは、専門性の高い看護の技術・知識を習得した看護師のことです。

横浜幸銀信用組合様より寄附をいただきました

横浜幸銀信用組合では”こどもたちの未来のために私たちができること”として「こどもの未来プロジェクト」に取り組まれておられ、その活動のひとつとして「入院・治療中のこどもたちの一助となり、こどもたちの未来が輝かしく希望につながるように」と、全国のこども病院等へ寄附を行われています。当院に対しましても、これまで３年間に亘り総額200万円の寄附をいただき、小児病棟・外来の療養環境の整備に使わせていただきました。紙面を借りてお礼申し上げます。



目録

一、金伍拾万円也

右、入院・治療中のこどもたちの未来が輝かしく希望にみちるよう寄付金として贈呈いたします

令和五年二月十三日

横浜幸銀信用組合　岡山支店
支店長　金城　泰　様

独立行政法人国立病院機構岡山医療センター
院長　久保　俊英　殿

たまには クラシック File 28

作品名：ポル・ウナ・カベサ，
Por Una Cabeza
作曲者：カルロス・ガルデル，Carlos Gardel (1890-1935)

■クラシックソムリエ　米井　敏郎

カルロス・ガルデル

今回とりあげる曲は，純粋にクラシックとは言い難いかもしれませんが，『ポル・ウナ・カベサ』というタンゴの名曲です．この曲名は競馬用語の「首（ひとつ）の差で」を意味しているそうです．競馬においてはゴールとは馬体の一部が決勝線に到達した瞬間をさしますので，通常，これは競走馬の鼻の先ということになります．ある馬がゴールに到達した時点と他の馬がゴールに到達した時点の差を，馬の体を単位とした距離で表示したものを着差といい，首差（頸差）とは約80センチメートルになります．アルゼンチンの不世出のタンゴ歌手，カルロス・ガルデルが1935年の映画『タンゴ・バー』（原題：Tango bar）の挿入歌として作曲したものです．しかし残念なことに，ガルデルは人気絶頂だったこの年に，飛行機事故で帰らぬ人となりました．このタンゴ『ポル・ウナ・カベサ』を一躍有名にしたのは，何といっても1992年に製作されたアメリカ映画『セント・オブ・ウーマン／夢の香り』（原題：Scent of a Woman）でした．盲目となった退役軍人を演じたAl Pacino（1940-）は，この映画でアカデミー主演男優賞を受賞しました．アル・パチーノと女優のGabrielle Anwar（1970-）がザ・タンゴ・プロジェクト（楽団名）による『ポル・ウナ・カベサ』の生演奏をバックにタンゴを踊るシーンは，エレガントで，甘く切なく，映画史に残る名場面といってよいのではないかと思います．ガブリエル・アンウォーは映画出演当時，22歳．少し躊躇いがちで，はにかんだような表情と匂い立つような美しさ（特に綺麗な背中は必見です）に見とれてしまい，そこで交わされる会話の如く，本当に石鹸の香りが漂ってくるかのようでした．アル・パチーノはタンゴを踊ることを躊躇うガブリエル・アンウォーにこういいます．"No mistakes in the tango, not like life. It's simple. That's what makes the tango so great. If you make a mistake, get all tangled up, just tango on."，「人生と違って，タンゴに失敗はないんだ．タンゴはシンプルだ．そこがタンゴのすばらしい所さ．足が絡まっても踊り続ければいい」．

さてお奨めのCDです．1. Nicola Benedetti（1987-），Kirill Karabits（1976-）指揮，ボーンマス交響楽団（Bournemouth Symphony Orchestra），[2012年録音，Decca]．ニコラ・ベネデッティはスコットランド出身のヴァイオリニストです．ニコラ・ベネデッティの演奏はうっとりするほど格調高い演奏で，『シルヴァー・ヴァイオリン』（The Silver Violin）というアルバムに収録されています．2. Camille Berthollet（1999-），[2015年録音，Rhino Warner Classics]．2014年の大晦日，フランスのTV番組『才能ある若者たち』（Prodiges）で優勝した15歳のヴァイオリニスト兼チェリスト，カミーユ・ベルトレのデビュー盤です．カミーユは，4歳よりチェロ，8歳でヴァイオリンも始めました．ジュネーヴ音楽学校をトップで卒業し，数々のコンクールで優勝しています．ちょっと変わったところでは，3. Miloš Karadaglić（1983-），[2012年録音，DG]．のギター演奏もあります．ミロシュ・カラダグリッチはモンテネグロ出身のイケメン・ギタリストです．セカンド・アルバムの『ラテンの哀愁』（原題：Latino）または "Pasión" というアルバムに収録されています．4. 吉田恭子（1974-），[2015年録音，Naxos]．"Romanza" というアルバムに収録されています．吉田恭子は東京生まれで，桐朋学園大学音楽学部を卒業後，文化庁芸術家海外派遣研修生として英国ギルドホール音楽院，米国マンハッタン音楽院へ留学し，Aaron Rosand（1927-）や江藤俊哉（1927-2008）に師事しました．5. The Tango Project（ザ・タンゴ・プロジェクト），映画『セント・オブ・ウーマン』のサウンドトラック盤です．

さて，YouTubeですが，CDと同じく，1. Nicola Benedettiの演奏を第一に挙げます．ニコラ・ベネデッティの演奏は，ショートムービー仕立てのプロモーションビデオとして作成されたと思われる，"Tango Por Una Cabeza" はフルハイビジョンで，映像も美しく，ニコラ・ベネデッティが超かっこいいです．2. David Garrett（1980-），ディヴィッド・ギャレットはドイツ出身のヴァイオリニストです．父親はドイツ人，母親はアメリカ人で，14歳の時にDG社と専属契約を締結しています．そのディヴィッド・ギャレットがベルリンで行ったコンサートの収録です．リトアニア出身のアコーディオン奏者，Martynas Levickis（1990-）と共演して，『ポル・ウナ・カベサ』を演奏しています．タイトルは，""Por Una Cabeza" with David Garrett - Live in Berlin" です．

映画『セント・オブ・ウーマン』のアル・パチーノとガブリエル・アンウォーのダンスシーンもYouTubeにアップされてはいますが，やはり映画は全編，きちんと観るべきだと思いますので，DVD/BDを購入するか，レンタルして観てください．

看護助産学校通信 Vol.50

卒業に向けて

■看護学科３年生　稲尾　莉帆

私たちは３年間、博愛、叡智、自律の教育理念のもと、看護師になるために必要な知識、技術、態度を講義や実習を通して習得してきました。入学時より新型コロナウイルス感染症の影響で、オンラインでの講義や臨地での実習が行えず学内での実習もありました。臨地実習では、感染予防のために面会が制限され、大切な家族にも会えずに闘病生活を送っておられる患者さんの姿を目にしてきました。学校で仲間と一緒に講義を受けられることや、臨地実習で患者さんに必要な看護を実施できることが、貴重なことであると痛感し、コロナ禍においても学習できたことに感謝の思いでいっぱいです。

卒業後は、助産学科に進学する予定です。仲間と全員で看護師国家試験に合格し、目標に向かって今後も自己研鑽を続けていきます。

最後になりましたが、コロナ禍においても、私たち看護学生を受け入れてくださった患者さん、実習指導者や病院職員の皆様に心より感謝を申し上げます。

模擬患者演習による多重課題演習の様子

看護研究発表会の様子

卒業に向けて

■助産学科第12期生　豊嶋　里緒／細川　紫帆里

私たちは、昨年、期待と不安を抱きながら助産師になる夢に向けて第一歩を踏み出しました。思えば、１年間で知識と技術を習得する日々はとても充実していました。実習では、瞬時の判断や実践が求められ難しく感じましたが、仲間と切磋琢磨し、指導者のご指導を受けながら経験を積み重ねました。無事に出産を終え、産婦さんから感謝の言葉をいただいたときは嬉しく、やりがいを感じました。同時に自分の判断が母子の命に関わる責任の重さを実感しています。

卒業後も専門職として日々研鑽を積んで参りたいと思います。最後になりましたが、コロナ禍において実習を受入れてくださった妊産婦さんとそのご家族、病院職員の皆様に心より感謝を申し上げます。

全員で取り組んだオンライン両親学級終了後の様子

岡山県保健衛生功労者表彰

■助産学科　教務助手　久世　恵美子

このたび、岡山県保健衛生功労者岡山県知事表彰を受けました。授賞式は令和４年11月10日に岡山県庁にて行われ、岡山県知事より、妊娠・出産・子育てにおいて切れ目ない保健活動の継続への功労と感謝のお言葉をいただきました。

このような賞をいただいたことを大変光栄に思うとともに、支援をいただいた皆様に感謝いたします。私は約31年間、助産師として、妊娠・分娩・育児期の母子を支援する活動に従事し、９年前からは当校で教務助手として、看護・助産学生の教育にも携わっております。女性を取り巻く社会の変化や出産の高齢化の中で家族の支援の重要性を感じております。微々たる力ですが、これからも母子支援に尽力していきたいと思います。

臨床研究推進室便り

医学の進歩に積極的に関与する部署です。

薬の歴史

■CRC（看護師）　西山　美登利

まだまだ肌寒い日が続きますが、太陽の光は段々と春めいてきましたね。

今回は日ごろ使用している薬はどのような歴史があるのか調べてみました。

「日本で薬の科学的な研究開発が始まるのは明治になってからのことです。

明治になって開国し、西洋の医学・薬学が本格的に導入されると共に、外国へ積極的に出かけることができるようになったことが背景となっています。

明治時代初期の日本には、まだ合成薬を創る技術がなく、輸入薬に頼っていました。しかし、輸入薬の中には粗悪品も多かったため、明治政府は1874年に、日本初の国立医薬品試験機関である司薬場（しやくじょう）を設置しました。

1877年には、西日本でコレラが大流行し、輸入品であった消毒薬のフェノールが極端に不足するという問題が起こりました。そこで政府は司薬場に製造研究を行わせ、国産のフェノールの製造に成功しました。

この経験をもとに医薬品の国産化を目指し、1883年に日本初の製薬会社が官民共同で設立されました。その後、製薬会社が各地で設立されましたが、国産の薬は豊富な実績をもつ輸入薬に対して、事業としてはあまり振るいませんでした。

しかし、1914年に第一次世界大戦が始まると薬の輸入が困難になり、国産の薬の必要性が高まったことで、薬の研究と製造が本格化されました。その後も日本の製薬事業はめざましい発展を遂げてきましたが、その礎を築いたのは明治時代の研究者たちの活躍によるものなのです。」

以上が中外製薬WEBサイトで記載されている薬の研究開発の歴史になります。過去の研究者たちのおかげで私たちも薬を使用できているのですね。

治験管理室は当院で実施している治験が円滑に進行できるようサポートしている部署です。微力ではありますが国内外問わず薬の研究開発が発展できるよう今後も私たちスタッフは頑張っていきたいと思います。

当院で行っている治験については主治医に遠慮なくお尋ねください。

引用元：中外製薬株式会社様WEBサイト　「くすり研究の歴史」より
URL：https://www.chugai-pharm.co.jp/ptn/medicine/history/history004.html

医療安全レポート

病院内での転倒防止に取り組んでいます。

病院の中で起こる患者さんの転倒事故は高い頻度で報告されています。転倒の原因には大きく分けて内的要因と外的要因の２種類があります。内的要因は患者さんの身体的な問題によるもので、加齢による筋力・バランス能力の低下や歩行能力の低下、認知症や循環器・神経系・骨関節系疾患等による障害、これらの機能に作用する薬物の影響等が挙げられます。外的要因は患者さんを取り巻く環境の問題のことで、ベッドの高さや照明の明るさといった病室の設備や不慣れな環境下での生活も含まれます。

昨年度、当院では転倒により骨折した患者さんが14名報告されました。セーフティーマネージャー会議に属する転倒転落グループでは、その報告書を調査して転倒による骨折の予防対策を検討しています。報告書の分析では転倒に繋がりやすい要素として①夜間②排尿時③ベッドサイドが挙がり、患者さんが主に過ごされるベッド周りに重点的な対策が必要であるとわかりました。また転倒による骨折は入院から１週間以内に発生しやすいこともわかりました。

当院では入院時に患者さんの状況に応じてベッド周りの環境を整え、必要な援助の立案を行っていますが、今後はさらに入院初期の対策を強化して、１件でも転倒を減らせるよう取り組んでいきたいと思います。

■副理学療法士長　桑本　美由紀

キワニスドール贈呈式およびキワニスドールセミナーが開催されました

病気の子どもたちを勇気づけるために人形を手作りしています

■小児科医長　古城　真秀子

2023年２月２日キワニスドールの贈呈式が開催されました。ところでキワニスドールってなあに？というお問い合わせが小児医療関係者からも多くあり、キワニスドールをみなさんに知ってもらおうと、贈呈式の後にキワニスドールセミナーを開催しましたのでご紹介します。

キワニスドールはキワニス（Nunc Kee-wanis: アメリカ先住民のことばで「みんな一緒に集まる」に由来）クラブという世界３大社会奉仕団体の一つが、活動の一環として病気の子どもたちを勇気づけるために手作りしている人形です。1988年オーストラリアで初めて作られ、日本では2001年からキワニスドール制作の取り組みが始まりました。キワニスドールは世界共通のサイズで制作されています。

- 全身真っ白
- 身長40センチ
- 体重50ｇ
- 足の横に「Kiwanis」のタグをつけること
- ２体を立てかけ合わせて自立すること
- 絵付けをしたり子どもが手にもつため、綿を均等に詰めること

この基準を満たす人形たちを、キワニスクラブの活動に賛同する団体（今回は岡山南高校の学生さん）が制作し病院や関係施設の子どもたちに贈呈しています。型紙通りに縫うこと、綿を均等に詰めることは大変難しく、完成しても２体を立てかけ合わせて自立しないと、作り直しになってしまいます。

今回の贈呈式には岡山キワニスクラブ会員５名、久保会長（院長）、岡山南高校の学生さん代表３名、小児系医師16名、さにーちゃんとさにーちゃんのお母さんが参加し、にぎやかに行うことができました。久保会長のあいさつでは、岡山キワニスクラブの歴史を学ぶことができました。日本では1964年に東京キワニスクラブが設立されましたが、岡山キワニスクラブは2020年７月７日に設立されたばかりなので、キワニスドールを知らない医療関係者が多くても不思議ではありませんね？次に岡山南高校の学生さん代表３名からキワニスドール73体が贈られ、さにーちゃんと小児科医師が受け取りました。キワニスドール一体一体には手書きのあたたかいメッセージも添えられて、きれいにラッピングされています。最後に、さにーちゃんから学生さんにキワニ

キワニスドール贈呈式

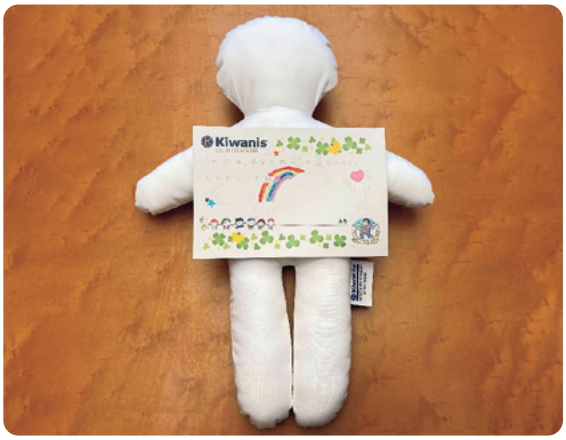
スさにーちゃん(さにーちゃんのお母さん作)がプレゼントされ、全員で記念写真を撮りました。

キワニスドールセミナーは3部構成で開催しました。第1部は岡山南高校の学生さん代表3名が実際にキワニスドールを制作している様子を動画を交え工夫したところや苦労話、コロナ禍で実際には子どもたちに手渡せないけれど心を込めてメッセージカードを書いてくれているところなどを紹介してくれました。第2部では岡山キワニスクラブの方からキワニスクラブの歴史や国際的な活動について、過去のキワニスドールの活動や贈呈式の様子を、たくさんの写真で紹介していただきました。キワニスドールを贈呈された子どもたちが真っ白い人形に思い思いの顔やお気に入りの洋服や靴、大好きなキャラクター(アンパンマンが一番人気のようです)を描いて、実際に大事に抱っこしている様子がとても印象的でした。長い長い入院生活では大好きな飼い猫に会えないけどキワニスドールに猫ちゃんそっくりのお顔と毛並みの模様を描いて寂しさをまぎらわしている患者さんの姿もありました。

第3部では当院小児科で2012年(岡山キワニスクラブが設立される前です!)にキワニスドールを使って自己注射の練習をしている実例を紹介しました。小児患者さんが自分に注射をしなければならない時、キワニスドールも一緒に注射を打たれて、痛いのは自分だけじゃない、ひとりで我慢しなくていいんだ、と痛みを分かち合ってくれる仲間になってくれていることを学生さんたちに伝えることができました。

贈呈式の様子はマスコミにも扱っていただき、患者さんや学生さん、医療関係者の方々からキワニスドールを作ってみたい、キワニスドールに帽子やお洋服を作って着せ替え人形としても子どもたちの遊び相手になってもらいたい、などの反響をいただきました。この記事を読んでキワニスドールを作ってみたいなと思われた方、大募集します!子どもたちにキワニスドールと笑顔を届けてみませんか?

キワニスさにーちゃん



身長40センチ、体重50g
足にKiwanisのタグ付き

2体を立てかけ合わせて自立すること
(支えあって立っています)

患者支援センター

医療ソーシャルワーカーのユニフォームが新しくなりました

話ししやすい雰囲気と親しみやすさ、明るさを持って医療福祉相談に応じたいと思います

■医療社会事業専門職　神﨑　早苗

患者支援センター所属のMSW（医療ソーシャルワーカー）のユニフォームが、令和5年3月より変わりました。ユニフォームは明るいブルーを採用しました。青色は、爽やかな空、生命の源の海、身体に不可欠な水を発想されると言われています。患者さんやご家族にとって、お話ししやすい雰囲気と親しみやすさ、明るさを持って医療福祉相談に応じたいと思います。ご用の際は、お声掛けをお願いします。

また、患者支援センターは、令和4年8月に入退院支援センターと地域医療連携室が統合されています。4月からは、地域医療連携部門・入退院支援部門・病床管理部門として、それぞれの役割を明確にし、お互いに連携を取りながら、院内院外連携・地域医療に貢献してまいりたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【地域医療連携部門の主な業務】

- 地域の医療機関から紹介された患者さんの外来・検査予約、救急対応の窓口
- 医療機関からの転院時の連携
- 紹介された患者さんの受診報告、入院報告、退院報告
- 医療機関よりの紹介状の返書管理
- 土曜日（午前中）：外来予約業務

【入退院支援部門の主な業務】

- 医療相談（患者さんやご家族の心理・心理・経済的なご相談、がん相談含む）
- 制度説明（介護保険、高額医療、難病医療、身体障害者手帳など）
- 入院前から多職種による入院療養生活の説明や支援
- 入院支援看護師が各種アセスメントを行い、入院予定病棟の看護師へつなぐ
- 入院支援看護師による電話訪問
- 医療ソーシャルワーカーや退院調整看護師による退院に向けた支援や在宅調整
- 訪問看護ステーション、ケアマネージャー、保健所等との連携
- 当院から地域包括病床、回復リハビリテーション病床、療養病床等のある医療機関へ転院する時の連絡や調整

【病床管理部門の主な業務】

- 緊急入院、予定入院の病床管理・病床調整
- 新型コロナウイルス感染症検査対象患者の検査予約

患者サポート室の活動～患者さん、ご家族の皆さんへ～

どのようなご相談にも、皆さんと一緒に考え、お答えさせて頂きます

■患者サポート室（相談員）　岸野　淳一郎

患者サポート室は、当院をご利用される皆さんのお困り事やお悩みの点などをお伺いして、患者さん等とご一緒に問題を解決していくことを目的として設置されています。

ここでは、患者さん及びご家族の方々が安全安心の医療（治療・入院・療養等）を受けられますように、皆さんが抱えておられる様々な不安・不満そして不明な点に随時お答えしています。そして、どのようなご相談に対しても院内の各職種と連携を図りながら迅速かつ丁寧に適宜対処して参ります。

また、昨年（令和４年）８月には、患者サポート室のすぐ近くに、入退院支援センターと地域医療連携室が統合された患者支援センターが設置されており、そちらには看護師・医療ソーシャルワーカー等の各専門分野の職員が常駐しています。これにより、医療福祉サービスや医療費用等に関する具体的なご質問についても、よりスピーディーに応じられる体制となっています。

このように、患者サポート室では、患者さん等からのあらゆるご相談に的確なご回答が出来る態勢が整っていますので、ご遠慮なくお申し出ください。なお、ご相談者の方々のプライバシーに係る内容については、秘密厳守のうえ厳重に取り扱っていますので、ご安心して何でもお気軽にご相談してください。

- 場　　所：本館２階フロア
  「①番窓口（入院される方）」
  右側のブース
- 開 室 日 時：平日……8:30～17:15
- 電話連絡先：086-294-9911（代表）

「患者サービス推進室」～皆様の声をお聞かせ下さい～

■患者サービス推進室（医事係）　和田　紘加

患者サービス推進室は当院の患者サービスの現状を把握し問題点改善を目的として開設しております。

毎月定例の日を設け、事前に集計・分析を行った患者さんの意見を基にサービス向上に向けて検討を行っています。

メンバーは医師を室長として看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、診療放射線技師、臨床検査技師、事務員と各部門の代表者により構成されています。

ご意見箱に寄せられたご意見で急ぐ案件に関しては各部署の責任者にその都度連絡し対応を検討しております。急がない意見に関しては毎月の定例会議の際、寄せられたご意見を討論し、各部署の実務担当者に対応を依頼しております。

サービス向上につながる厳しいご意見も頂戴しておりますが一方で感謝励まし等の温かいご意見もたくさん頂戴しております。

昨年度の入院患者さんのアンケート集計結果では約99%の方が満足されているとの回答をいただきました。

皆様よりいただいたご意見を今後の病院運営の参考にし、よりよい病院づくりに努めて参ります。

是非ご意見箱へのご投函のご協力をよろしくお願いいたします。

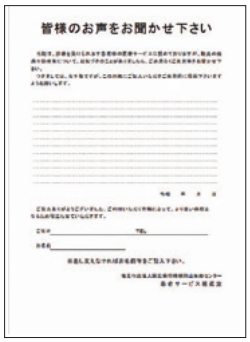
ご意見箱設置場所

アンケート回収箱は各病棟や総合案内前に設置

総合案内前

ご意見箱を各外来ブースや病棟に設置

アンケート用紙についての紹介



各ご意見箱の傍らに配備

入院時に配布

絵本を出版しました！

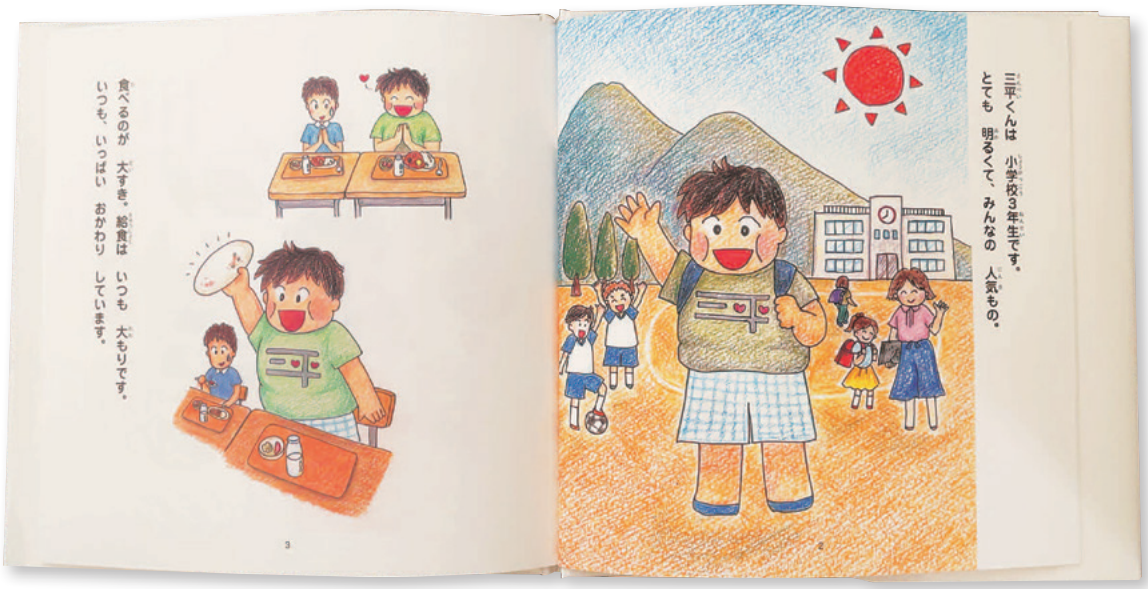
■院長　久保　俊英

小児肥満の啓発絵本「三平君、食べるのだーい好き！」を出版しました。幼稚園年長組、小学校の低学年を対象に、肥満の解消法を絵本で物語としてわかりやすく解説したものです。今まで、大人が子どもの肥満解消のために読む本は多く出版されてきていますが、子ども自身が読んで理解できるものは皆無でした。私は県内ではただ一人の日本肥満学会認定の小児肥満症専門医、肥満症指導医であり、当院は肥満症専門病院に指定されており、長年子どもの肥満診療に携わってきました。一方で、幼い子どもたちに肥満解消の動機付けをする良い方法はないかとずっと考えていました。

このたび、ストーリーは私が、絵は以前国立岩国病院勤務時代に同僚だった「すくすくこどもクリニック」の二階堂香織先生が担当して、私の研究費で３月１日に上述の啓発絵本を1,000部出版しました。

岡山県図書館協会の審査も通り、県内のすべての公立図書館、小学校、幼稚園、認定こども園に寄贈しました。また、基幹病院、小児科開業医にも寄贈し、院内においても、小児科外来、６Ｂ病棟、くるみ園に配備しました。

読んでみて、感想など聞かせて貰えれば幸いです。



編集後記

春の日差しも心地よい季節になりました。コロナの新規陽性者数は１月初旬をピークに減少、小康状態が続いており、政府から３月13日以降は、感染防止対策としてのマスク着用を個人の判断に委ねるとの方針が示されました。しかしながら当院は、重症化リスクの高い患者さんが多数入院または通院している状況を鑑みまして、院内では引き続きマスクの着用をお願いしています。皆様のご理解とご協力のほど引き続きよろしくお願い申し上げます。

■医療広報推進室　樋口

ザ・ジャーナル!!
広報第17巻　第4号　令和5年3月26日発行（年4回発行）　発行責任者／久保俊英　編集責任者／平見有二　独立行政法人 国立病院機構岡山医療センター 医療広報推進室
〒701-1192 岡山市北区田益1711-1　TEL 086-294-9911　FAX 086-294-9255　URL https://okayama.hosp.go.jp/　E-mail 504-info@mail.hosp.go.jp　印刷：(株) 中野コロタイプ